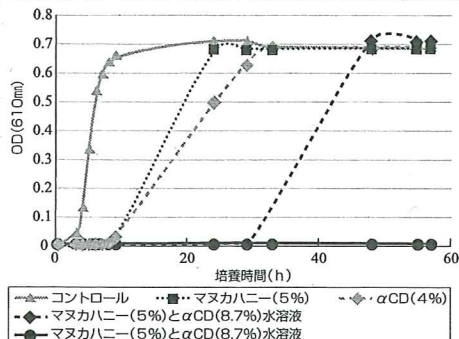


# 腸内環境改善特集

■マヌカハニーとαCDの黄色ブドウ球菌に対する抗菌性相乗効果



## マヌカハニー 抗菌活性物質を特定 αCDとの混合末で相乗効果

マヌカハニーは、ニュージーランドの山奥に自生するフトモモ科の低木植物「マヌカ」の花からミツバチが採取した蜂蜜。蜂蜜は古くから抗菌性を持つことは知られているが、マヌカハニーは一九九二年に抗菌活性に関する学術論文第一号が発表され、一九六〇年にはグルコースオキシターゼにより発生する過酸化水素の抗菌性、一九八八年には過酸化水素とは異なる抗菌活性物質の存在が明らかにされ、最近では、ミュータンス菌やピロリ菌にも有効であることが確認された。腸内においては合成抗菌剤や抗生物質とは異なり、善玉菌は攻撃せずに悪玉菌のみを攻撃するほか、プロバイオティクスとして善玉菌増殖に作用し、腸内細菌の活性化に機能することが認められている。

(株)シクロケムでは、ニュージーランド・マヌカヘルス社と国内販売の独占契約を結び、今年十月からグループ企業の(株)コサナより百貨店の高級食材、健康食品売場などでマヌカハニーを販売している。今年一月、ニュージーランド・ドレステン大学のヘレン教授は、これまでのマヌカハニーでは特定できなかった過酸化水素以外の抗菌活性物質が「メチルグリオキサール(MGO)」であることを明らかにした。それを受け、マヌカ

ヘルス社は、MGOで登録商標を取得し、MGOを抗菌グレードの指標とした。研究では、マヌカハニーは一般の蜂蜜の一〇〇〇倍以上のMGOを含有することが認められている。

また、シクロケムは最近の研究により腸内ビフィズス菌増殖作用のあるαシクロデキストリン(αCD)とマヌカハニーを併用した場合の腸内環境改善効果を確認している。試験はマヌカハニー五%、αCD四%、マヌカハニー五%とαCD八・七%の混合水溶液、マヌカハニー五%とαCD八・七%の水溶液乾燥粉末をそれぞれ水に溶かし、フラスコ内の腸内の悪玉菌の一つである黄色ブドウ球菌の培地に加えて菌数の変化を測定。マヌカハニー、αCDのみを加えた場合、培養時間一〇時間は抗菌効果を示し、その後、急激に菌数を増加させたのに対し、この二素材の水溶液は二〇時間過ぎまで菌数の増加を抑制し、同乾燥粉末では二〇時間を越えて四〇〜六〇時間以上の菌数増加抑制が認められた。この治験をもとに、同社は粉末のマヌカハニーとαCDの混合末を特許申請した。さらに現在、共同開発企業を募集している。

このほか国内では、コンビエッジヤパン(株)、大雄産業(株)などがマヌカハニーを供給している。国内の蜂蜜市場は二〇〇億円といわれ、九割が中国産、一割弱がブラジル産、残りのごく僅かをニュージーランド、アルゼンチン、カナダ、ヨーロッパ諸国で分け合っている。シクロケムは、MGOを特定成分とするマヌカハニーで国内市場の拡大を目指している。